

令和4年度 第4回 城陽市環境審議会 議事録

日時	令和5年1月23日（月） 午後2時00分～午後3時20分	
場所	城陽市役所西庁舎 403会議室	
議題	◆会議 城陽市地球温暖化対策実行計画（案）について	
出席者	委員	新川会長、中川副会長、北川委員、中原委員、田浦委員、弘本委員、宮永委員、岡本委員、河岸委員 （オブザーバー）城陽環境パートナーシップ会議 大野会長
	行政	森田市民環境部長、堤市民環境部次長、成田環境課長、太田主任、山田

<質疑等の概要>

◆城陽市地球温暖化対策実行計画（案）について

事務局より説明。

委員： 計画案を拝見したところ、市としてすべき事と、出来る事が擦り合わされ、まとまったものになっていると思います。

61ページの省エネの取組に関して、省エネというと、我慢するとか不便を甘受するという印象がありますが、メリットがあることも記載いただいています。もうひとつのメリットとしては、エネルギー価格の高騰の状況の中で、経済的にもメリットがあることを示していただければと思います。国際情勢を考えると、エネルギー価格が下がることはないと思いますので、省エネに取り組むことで経済的メリットに繋がっている事を伝えてもらえればと思います。

64ページの再エネについても一つの柱だと思えますが、再エネに対しては、昨今ネガティブな意見があり、野山を切り開いて太陽光パネルを設置するのが環境に優しいのか疑問視する意見も出てきています。そのため、再エネに伴って起こりうる問題、生態系破壊や災害について、市としてきちんと対応していく事に言及があれば、安心してもらえそうです。

会長： 家計へのメリットをどうやって伝えていくかは、今後の施策で反映すべきご意見かと思えます。再エネについては配慮すべき点はたくさんあります。市の取り組みとして、再エネを導入していくにあたっての考え方を固めて進めていただきたいと思います。

太陽光パネルを設置することに規制をかけることについて、ここで書き込む事は難しいかもしれませんが、城陽市でそこまでの議論が起こる可能性は低いと思いますが、留意して市としても方針を固めてほしいと思います。

委員： 前回審議会の意見を取り入れていただき、充実した形で方向性も良いものになったと思います。今後はこれをどう実現するかが問われてくると思います。

64ページで太陽光発電等の導入について、公共施設等の新設の際に検討するとありますが、エネルギー価格の面からも新設の際には付けたほうが得なのは分かっていることで、京都府の条例でも延床面積300㎡以上では設置が義務化されていますので、「必ず設置します」と書いていいぐらいだと思います。「検討します」では現状に即していないのではないかと思います。

「低炭素」を「脱炭素」に変更したという説明がありましたが、73ページに「低炭素」が残っていますので「脱炭素」に統一してはどうかと思います。

今、ソーラーシェアリングが注目されていて、持続可能な農業を行う上で重要であり、バリエーションも広がっていますので、設置を促進するような検討をどこかに入れてはどうでしょうか。

事務局： 施策としてソーラーシェアリングはまだ入れていないので、担当部局と相談しながら、入れられるようなら入れるようにしたいと思います。

会長： 「低炭素」が残っているところについては「脱炭素」で統一していただければと思います。

市の施設の新設時の太陽光パネルにつきましては、責務にもなっていますので事務局でご検討いただきたいと思います。

副会長： 低炭素が残っていることについては私も気になりました。

用語集をつけていただいています。掲載している用語については資料編に載っていることが分かるよう、本文中に注釈をつけてほしいと思います。

環境省のゼロカーボンアクション30の取り組みは面白いと思いました。パブコメでも具体的な取組について問われていましたので、このような情報があれば参考になって良いと思います。

パブコメを見て気になったのが、個人または組織で取り組んだ結果、どれだけ具体的に効果が現れているか知りたい、見える化してほしいという意見があったと思います。ただ実際は、取組の結果、城陽市としてどれだけCO2を削減できたかを示すことは難しいと聞いています。国や府の統計の按分で算出していることが、市民のみなさんは分かりづらいのかなと思います。

取り組んだ結果が、すぐに見える化できるような誤解があると思いますので、個人の取り組みが日本国として貢献し、それが城陽市に還元されるという説明を、難しいと思いますが示せばいいのかなと思います。どう示すのかアイデアがあればよいと思います。

パブコメは具体的なご提案も多いので、実行計画を立てる時の参考にしてほしいと思います。

会長： 努力をしてどれだけCO2を削減できたか、日常生活の取組について見える化するのは難しいと思います。しかしゼロカーボンを目指す上で、あらゆる産業活動や生

活行動の中での CO2 削減を考えていかないといけないと思います。カーボンフットプリントなどの考え方もありますが、これを正確にそれぞれの地域の CO2 として考えるのは難しいと思います。市の区域的なカーボンフットプリントを想定するぐらいは出来るかもしれませんが、一人ひとりの取組に対しては難しいと思います。どうすれば見えやすくできるかを考えると、市域全体の CO2 削減の動向を見えやすくすること、環境省の 30 のライフスタイルでの目標も組み合わせ示していくこともできると思います。計画を実行する段階での啓発や、見える化の手法として検討いただければと思います。

委員： 今月の電気代はとて高くなっていて話題になっています。寒い時期なので更に影響が大きく、3～5割上がっているという声も多いです。施設でも電気代が上がっていると聞きます。

日本の家は世界的に見ても寒いと聞きます。健康維持のためには暖房をつけないといけないですが、電気代がすごくかかります。

電気代には皆敏感になっていますので、それをどうやって節約できるかを打ち出して、エコについて宣伝すれば効果があると思います。

パブコメをくれた人の年齢層はどのようなものだったかわかれば教えていただければと思います。

事務局： パブコメ記入用紙に年代を求めていますので分かりませんが、今回は8名の方にご意見をいただき、温暖化対策について、関心の高さを感じました。前回はもっと少なかったと思います。

会長： 見える化をしてどういう節約ができるか、工夫の余地があるかもしれません。家庭では節電しても電気代高騰で高くなった人もあると思います。

日本の住宅は寒さに弱いので仕方ないところもあり、健康的な暮らしを支えるには不十分ですので、断熱の工夫や、温め方の選択と周知など考えていく必要があります。市役所での啓発でも重要になってくると思いますので、今後のアピールの中でも工夫してほしいと思います。

住宅の断熱としては、窓にアクリル板を貼ったり、外断熱の外壁など工夫できる余地があると思います。費用がかかることもありますが、計画を実行していく時に、市として情報提供されるとよいと思います。

委員： 日本では遅れていますが、イギリスでは燃料貧困対策と CO2 削減がセットになって考えられ、社会政策としての環境政策が論点となっています。ヨーロッパではそのように考えていかないといけなくなっています。今回どこまで書くかは難しいと思いますが、貧困対策なども含めた社会政策としてのゼロカーボンを念頭にしていけないといけないと思います。計画書の冒頭か世界の動向のところ、あるいは答申書に、資源危機、エネルギー危機の流れの中でこの計画を考えたことについて触れてはどうでしょうか。

SDGs に関しても、この計画では脱炭素がメインになるので気候変動を重視して

いるが、気候変動に貧困や格差がセットになって問題化していくという視点を加えたいと思います。

ゼロカーボンシティが浸透していないということが意見書にもありましたが、環境教育や情報発信のところで、ゼロカーボンシティを強調されてはと思います。

用語集で、本編に出てきた用語のうち、PPA や 0 円ソーラーが入っていませんので、漏れがないかチェックしてほしいと思います。

会長 : エネルギー危機の問題を乗り越えていくための SDGs の視点を、意見書に入れても良いと思いますので、反映できるのであればお願いしたいと思います。

気候変動については 2～3 ページ目に書かれていますが、世界的な情勢の変化というところも少し触れると、この計画が何をしようとしているのか分かります。可能であれば検討してほしいと思います。

委員 : 67 ページの市の取り組みのところで、子どもを対象としたどんぐりやまプロジェクトなど書いていただいています。大人や中高生が置き去りにされているように感じます。城陽市には自然や里山があり、市民講座などもあるので、地域の生物多様性などを理解するためには、子どもだけでなく大人も巻き込む必要があると思います。

城陽市在住で「森の案内人」として活動されている方がいらっしゃって、植物に詳しく、日本中で環境の講座をされています。そういう人に講座をお願いされてはどうでしょうか。市民の中にも、自分が住んでいる地域の生物について知りたい、講座に参加したい人は多いと思いますので、大人向けのアクションも検討してほしいと思います。

事務局 : 環境パートナーシップ会議で自然観察会やガイドブックの発行を行っています。もっと知ってもらうために周知して、興味のある人が参加できるようにしたいと思います。

ワザバー : 環境パートナーシップ会議では、生物多様性の活動にも力を入れています。自然観察会や冊子作りなど、まずそういう取組を知ってもらうことから始め、来てもらうところに繋げたいと思います。一気に知ってもらうことは難しいですが、少しずつ広げていけたらと思っています。

委員 : SNS も活用されたら良いと思います。

ワザバー : 様々なご意見をお聞かせいただき、進めていきたいと思っています。

会長 : 78 ページ以降で環境教育について記載していますが、行政だけでなくパートナーシップ会議など市民の力も合わせて、温暖化対策に取り組んでもらえるよう底上げをしていくことが重要だと思います。それぞれの知識や技術を磨いていただいで十分発揮してもらい、市がそれを支える仕組みにつながれば良いと思います。パートナーシップ会議との連携をとりながら、これからの環境学習を進めてほしいと思います。

SNS も含め工夫をしないといけないところも多いと思いますのでよろしくお願

いします。

副会長： 会長の冒頭の挨拶は重要だと思いました。テロやコロナなどいろいろな危機が環境に結びついているという、こういう年は稀有な状況だと思います。その状況下で温暖化対策の計画を立てたという事を、意見書だけでなく前書きにでも記載してもらえれば、こんな事があったということが残ると思います。こういうことがきっかけで計画が始まったのだということが残ると思いますので、単なる前書きとは違う意味合いも含めて、大事な記述が冒頭にあればよいと思います。

委員： 副会長の提案には賛成したいと思います。加えて、中学生アンケートなど特徴的な取り組みをされています。生徒たちが以前のアンケートよりも地球温暖化に対して関心を高めているというデータも出ています。この計画は未来を考えていく上で重要なので、こういう、世の中が非常に揺らいでいる状況で計画に向き合っていること、子どもたちが未来に対して強い思いを持っていることは語っていいと思います。

これが城陽市のゼロカーボンシティの根になるといいと思います。

会長： この計画の意味付けとして、子どもたちからゼロカーボンシティが実現されていくことにつながるようなことを書かれればよいと思います。

委員： この計画書をパッと見て、読みたい人は少ないと思うのですが、パンフレットの的なものを作られるのでしょうか。

事務局： 概要版を作る予定をしまして、次回の審議会で簡易的なものを提示したいと思っています。概要版は本編をコンパクトにまとめたものになりますが、温暖化の流れやどういったことを取り組んでいけばいいのかということが子どもたちにもわかるようにしたいと思っています。

委員： ぜひ子ども向けにお願いしたいと思います。

会長： 子どもが見てみたいと思うようなものをお願いしたいと思います。

委員： 計画をどう実現していくかというのが重要とお伝えしましたが、削減効果の見える化も重要ですが、環境に関心のない人にも関わって取り組んでいただく必要があると思いますので、もし入れられるのであれば、CO2削減と健康増進、福祉、働き方など他の切り口にも絡めてほしいと思います。

グローバルビジネスではCO2を出さないことや再エネ100%は当たり前になっていて、サプライチェーンで関わる場所にもその要求が広まっており、中小企業でも関心も高まって、そういう方向にならざるを得ないと思います。

ヨーロッパでは、農産物もCO2を排出して作った農産物を輸入しないような方針も見られますので、経済が大変なときにこうした情報は入りづらいとは思いますが、城陽市ではこういう動きを先取りして取り組むことで、新しい産業につながることを情報として伝えられると良いと思います。

また、省エネ技術も再エネも初期投資が必要なので、そこをどうするかも考えて進めていく必要があると思います。

会長： 温暖化対策に関心を持っていただくための切り口を、全方位で考えていくと、環境につながっている場面がたくさんあると思います。この計画には入りにくいと思いますが、今後全庁的に計画を進めていくにあたって、どの部署もどんな施策も事業もすべて温暖化対策に繋がることを示し、市民にもそういう観点があることを積極的に伝えることが重要な環境学習になると思います。

産業面では個々の事業者の判断で難しいこともあると思いますが、城陽市での産業活動は基本的にゼロカーボンを目指すこととなれば、城陽ブランドが確立されていく可能性もあると思います。これからはそういう地域のブランド力が求められる時代なので、担当部局も含めて検討してほしいと思います。

再エネ等の初期投資については、具体的な資金の提供、技術提供を市としてどう進めていくのかが実施段階での課題だと思います。

本日のご意見は、答申の意見書や、施策をもう少し前向きにしていくことが求められたと思います。修正時に改めて検討いただければと思います。最終案のとりまとめは会長と事務局で検討させていただき、答申前に何かの変更があれば各委員に照会いただくことでよろしいでしょうか。

一同： 異議なし。

オガザン： 計画書にパートナーシップ会議の取組についても触れられているとおり、温暖化対策から生物多様性に至るまで、城陽市の環境に取り組んでいきますので、今後ともご支援、ご協力いただければと思います。

会長： 以上で本日の会議を終了します。

以上。